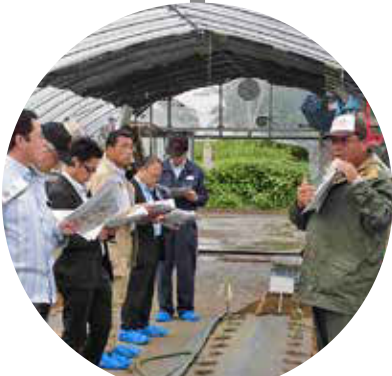


# 試験ほ場の役割



教えて! 熊倉さん

試験ほ場における具体的な取り組みを、担当の熊倉誠さんに伺い、チャート図にしました!



## 情報の収集・提供

組合員さんからの要望や、種苗メーカーからの試験栽培の要請に積極的に対応することで、栽培データを収集。良い品種であればいち早く組合員さんに情報と共に種苗を無償提供します。ここは“石狩の農業情報センター”でもあるのです。



## 始まりはハマボウフウ

最初に取り組んだのはハマボウフウでした。石狩浜で乱獲が進み、滅多に食べられなくなった春の味覚を、今では苗を育て、組合員さんに無償提供し、収穫物を「とれのさと」に出荷しています(5月の連休~6月下旬にかけて販売)。



## サヤエンドウ

石狩では高い販売額を誇り、今は4品種を試験中です。スナップエンドウも、これまで難しかった9月収穫を目指し、新たに2品種を栽培中。今年、その出荷量のデータをとり、結果が良ければ組合員さんに報告する予定です。



## トマト

生食用トマトは21品種を栽培しています。また、加工用トマトにも注目し、今年は「にたきこま」「なつのしゅん」の2品種を栽培。加工用トマトは「とれのさと」でもおいしいと人気で、日持ちもよく、生産者にとってもうれしい作物です。



## ブロッコリー

石狩では「ピクセル」という品種がほとんどの中、ここ3年ほど組合員さんと試験栽培してきたのが「SK9-099」。背丈が低く、葉の数も少ないため「収穫しやすく、おいしい」と評判も良く、今後はこの新ブロッコリーが皆さんの食卓にも並びそうです。

## 生産者を支える取り組み

石狩市農業総合支援センターは平成12年に設立され、石狩市とJAいしかり・JA北いしかり、石狩市農業委員会で構成する団体です。目指すのは安定した農業経営と、地域農業システムの新たな構築であり、試験ほ場の運営もその取り組みの一つです。平成22年以降、ハマボウフウなど石狩の新たなブランドになるような作物を探す一方、生産者への技術指導をはじめ、依頼された作物を試験栽培するなど、情報収集・提供に至るまであらゆる面からサポートする体制を整えています。

一方、次世代リーダーの育成にも積極的に取り組んでおり、担い手青年の会「いしかり塾」や指導農業士を増やすため設立された「半歩先を目指す会」の視察や講習会を開催するなど、生産者たちを支えています。

石狩市  
農業総合支援  
センターについて  
ご紹介します!



農政課 農業総合支援担当  
竹内 昌彦



### JAいしかり地物市場「とれのさと」

市内生産者85人が作った新鮮な作物を買い取ることができます。ここでは試験ほ場で無償提供された種苗で作った珍しい作物も並ぶとあって、営業期間中は常に目が離せません！ 石狩産食材で作られた加工品も人気です。

所 樽川120・3

期 4月中旬～11月下旬

※第2・4月曜定休。祝日の場合は翌日休み

時 9時30分～17時 ☎73・4500



### 市場動向をチェック！

収穫した作物は、市場の動向を知るため「とれのさと」に出荷することも。ちなみに写真のショウガは、茎付きで販売したら即完売。「これは商品になる！」と判断した作物は組合員さんに種や苗を無償提供し、作ってもらいます。石狩の新ブランドはこうして生まれます。



### 子どもたちへの食育

「子どもたちにも観察しやすい」と評判です。収穫体験はもちろん、その場ですぐに味わえる作物、例えば生で食べられる「ピー太郎(通称こどもピーマン)」なども栽培しています。今年は子どもたちを驚かさそうと、100kg近く成長する競技用スイカも植えました！



### パッションフルーツ

新たなブランド探しの一環として珍しい作物にも挑戦。その一つがパッションフルーツです。自然落下した実が1週間ほどして熟したら食べ頃です。香りがよく、サクッとした食感が美味で、ハウスがあれば石狩でも作ることができますと分かりました。



### 落花生

砂地の新規作物として試験栽培しています。サツマイモ同様、これまで北海道では難しいと思われていましたが、石狩でもおいしい落花生が作れるようになりました。時にはここでゆで、来場者に提供すると、皆さん「すごくおいしい！」と喜んでくれます。



### サツマイモ

JAいしかり青年部との連携により500～600株から始まったサツマイモも、今年は5品種2,000株を定植。焼酎やお菓子(羊羹)の原料用に出荷するほか、「とれのさと」では青年部が炭火で焼きいもにして販売。今年も秋ごろ実施予定ですので、どうぞお見逃しなく！



ただ今、新規就農支援プログラムを受講中！ ちきらさん4月からプログラムの「ニューファーマー研修」を受けている、ちきらさん。高岡でミニトマト栽培を学びながら、座学として農業や簿記についても知識を得ているといい、「農業をトータルで学べるのがうれしい」とのこと。「生涯、農業者として全うしたい」と抱負も語ってくれました。

地研修などの勉強会を行っています。  
ほかに、センターでは近隣大学とバスツアーを企画し、学生に石狩の畑で農作業を体験してもらうことでまちの農業をPRしたり、市主催の講座「いしかり食と農のレッスン」や、「いしかり農産物エキスパート養成講座」への協力を通して、石狩農業応援づくりを進めているところです。

## 石狩農業の未来を支える 取り組み

農業総合支援センターでは新たな農業の担い手対策にも大変力を入れていきます。

昨年11月には、センター独自で初めて就農相談会を開きました。就農までの道筋を説明したり、必要な資金の相談を受けながら新たな人材発掘を試みる一方、今年4月からは「新規就農支援プログラム」を新たに立ち上げ、2人の就農希望者に現地研修などの勉強会を行っています。